

全国協議会 ニュース

2013年1月1日発行 第247号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4
KTビル3F
TEL.(03)5823-6360
FAX.(03)5823-6365
発行責任者:中野勝博
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

新年のご挨拶

全国骨髄バンク推進連絡協議会
会長 市川團十郎



新年明けましておめでとう
ございます。

昨年は、京都大学の山中教授がiPS細胞の研究でノーベル医学生理学賞を受賞し、閉塞感漂う日本に希望の光が差し込みました。この技術を活用して、iPS細胞から造血幹細胞をつくる研究も進められており、将来、造血幹細胞移植医療が大きく変わるものと期待されます。しかしながら、しばらくは骨髄バンク・さい帯血バンクが患者を支える重責を担わなければなりません。

「学生や仲間にも恵まれた」山中教授は、会見でこう述べておられました。仲間がいるからこそ乗り越えられる壁があります。昨年は「造血幹細胞移植の適切な提供の推進に関する法律」も公布され、私たちの運動も今が正念場です。全国の仲間の英知を結集すれば道は切り開けるでしょう。皆様のご協力・ご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

厚生労働省健康局疾病対策課
臓器移植対策室長 間隆一郎

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

骨髄バンク事業は、今年で22年目を迎えます。皆様のご尽力を賜り、毎年多くの方にドナー登録者になっていただき、骨髄バンクを介して行われた骨髄移植は累計で1万5千例を超えました。これはひとえに、全国各地でバンクを支えて下さるボランティアの皆様方やバンク事業に携わる関係者の方々の御理解、御支援の賜物であり、この場をお借りいたしまして深く感謝を申し上げます。

こうした皆様のご努力を背景に骨髄バンクやさい帯血バンクを法定化するとともに、患者さんがより良い移植を受けることができる体制強化のため、議員立法により「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が、平成24年9月6日に全会一致で可決・成立し、同年9月12日に公布されました。

法律では、造血幹細胞移植に関する基本方針を定めることや、患者さんの疾病の種類や症状に応じた最適な移植が行われるよう、国が施策に取り組むことを求めています。法律は公布の日から1年6月

を超えない範囲内に施行することとなっておりますので、関係者の皆様のご意見も伺いながら、できるだけ早期に円滑な施行に努めてまいります。

結ばに、造血幹細胞移植が新たなステージに入るの初めに当たり、貴協議会のますますの御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 骨髄移植推進財団
理事長 齋藤英彦



新年、あけましておめでとうございます。当財団は昨年、公益財団法人に移行し、累計移植数1万5千例、ドナー登録者は42万5千人に到達しました。

また「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が成立、公布されることから、有識者による将来検討会議を立ち上げ、積年の課題であるコーディネーター期間短縮などの課題について検討を進めているところで

今後、一人でも多くの患者さんが骨髄または末梢血幹細胞移植を受けられるよう、ドナー登録者の増加と患者登録から移植までのコーディネーター期間の短縮に努めてまいります。

日本赤十字社
血液事業本部長 西本至



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

骨髄バンクの現在の登録者数は、ドナー登録者をはじめ、全国のボランティアや関係者の皆様方のご協力により、累計で56万人に達しております。

日本赤十字社では、昨年4月から骨髄データセンター事業にも広域事業運営体制を導入し、業務の集約化及び効率化に努めるとともに、さい帯血バンク事業を血液事業の関連事業と位置づけ、従来以上に造血幹細胞移植に積極的に取り組んで参りました。

造血幹細胞移植は、昨年の造血幹細胞移植推進法(略称)の成立により、大きな転換期を迎えているなか、日本赤十字社は貴協議会をはじめ関係団体と一丸となって、事業のより一層の伸展に向けて努めて参る所存です。

新年のご挨拶を申し上げます。貴協議会のますますの御発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして、新年の挨拶を申し上げます。

日本さい帯血バンクネットワーク
会長 加藤俊一



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が成立いたしました。脐帯血移植は、骨髄移植、末梢血幹細胞移植とともに造血幹細胞移植を担うものとして期待され、同時に公的脐帯血バンクにはその供給事業としての大きな責任が課せられることとなります。

造血幹細胞移植にとつて大きな変革期となるこの一年、公的脐帯血バンク事業の責務である安全で高品質な脐帯血提供のため、各関係機関の皆様との連携を深めて、新たな体制の確立に尽力して参りますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴協議会のますますのご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして、新年の挨拶を申し上げます。

活動資金の援助をお願いします
銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655
郵便振替口座 00150-4-15754 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
※国税庁より「認定NPO法人」として認可されていますので、寄付控除の対象となります。

全国骨髄バンク推進連絡協議会
理事長 中野勝博



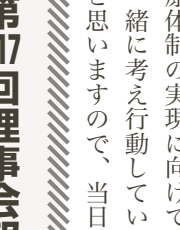
謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、経済情勢が厳しい折にも皆様方には、全国協議会に多大なご支援ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。また、タイムリーな情報を適時にお届けしていただき、協議会ニュースをいつも愛読いただきありがとうございます。本年も「各地のたより」など、全国の皆様からの寄稿をお待ちしておりますので、宜しくお願いいたします。

さて、昨年9月12日、多

はじめてまして！あるいはご無沙汰して！「しゅすらん」です。転動族ボランティアとして、鹿児島県では短い間で、鹿兒島の会では短い間で、初代会長を。その後、沖繩、和歌山、大阪、岡山で参加してきました。夫の転動により、地域に根付いて活動をする普及広報委員の様な活動は出来ないかと割りきり、その府県地域での活動以外に、パ

第117回理事会報告
12月16日 全国協議会事務局



この新しい年が皆様方にとりましてより佳き年になるよう心より祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

お寄せ下さい。そして、詳細は次号で紹介しますが、2013年の新事業として「志村大輔基金」が設立されました。現行の基金制度と共に、患者支援により厚みを増した活動を目指し、本年も理事、事務局一同、気を緩めることなく積極的に業務に取り組みまいります。患者支援、ドナー支援活動に皆様のご更なるご支援をお願いいたします。

「報告事項」
●財団関連
●共催事業について
●日本小児血液・がん学会での活動について
●第7回役員選挙について
●ブロックセミナーについて
●東日本大震災被災患者支援基金 受付・給付状況
●白血病フリーダイヤル受付状況

「今後の予定」
1月19日 第118回理事会

「今後の予定」
1月19日 第118回理事会

「今後の予定」
1月19日 第118回理事会

「今後の予定」
1月19日 第118回理事会

「今後の予定」
1月19日 第118回理事会

「今後の予定」
1月19日 第118回理事会

「今後の予定」
1月19日 第118回理事会

「今後の予定」
1月19日 第118回理事会

複数さい帯血移植再開を!

日本造血細胞移植学会、日本さい帯血バンクネットワークへ要望書提出

全協第3316号
2012年12月17日

一般社団法人 日本造血細胞移植学会
理事長 岡本真一郎 様

特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
会長 市川剛十郎
理事長 中野 勝博

複数さい帯血移植の再開について (要望)

拝啓 厳寒の候、貴職におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素は血液難病患者の救済のためご尽力いただいておりますことに心より敬意を表します。

さて、7月15日付「さい帯血バンクNOW第66号」で、複数さい帯血移植の臨床試験結果が報告されておりました。そこでは、移植の安全性が確認された第1相臨床試験を受けて実施された第2相臨床試験において、症例61例を解析した結果、設定した有意性を示すことができなかったと紹介されています。

この記事を受け、日本さい帯血バンクネットワークにその説明を求めたところ、臨床研究としては複数さい帯血移植の有意性を示しきれなかったが、その有用性を肯定も否定もできなかったと理解してほしいとの回答を頂きました。さらに、「今後の複数さい帯血移植の方向性については、ニーズ調査などを踏まえ、日本造血細胞移植学会とともに検討していく」という記述に関して、貴学会に要望したものの困難であるとの回答があったと伺っております。

現状において、単一のさい帯血で必要細胞数を満たすことができない場合、患者はさい帯血移植を受けることができません。単一さい帯血移植とほぼ同等の成績であるにもかかわらず、治療の可能性が閉ざされてしまいます。

つきましては、さい帯血移植を必要とする患者が一人でも多く、その機会を得られるよう、下記のとおり要望いたします。 謹白

記

単一さい帯血移植を受けることができない患者に対しては、複数さい帯血移植を認めてください。

以上

白血球・再生不良性貧血など血液疾患の根治療法として造血幹細胞移植療法が定着していますが、わが国では骨髄移植と並んで、さい帯血移植が盛んに行われています。

凍結保存されているため検査の時間が短く、短時間で移植が可能、HLAが一部不一致でも移植が可能などのメリットがある反面、細胞数が少ないため体の大きな患者さんには移植しにくいという問題があります。

これを補うため、複数さい帯血を移植するいわゆる「カクテル移植」が開発されました。しかし、移植の有効性・安全性の検証が不十分であるとして2010年1月に終った臨床試験以降行われていません。健保の取り扱いも複数さい帯血移植をして1

個のさい帯血の費用しか補填されず、制度未整備の状態です。

臨床試験の結果では移植成績は有意的に優位という結果ではないものの、細胞数が不足して単一さい帯血移植ができない患者さんに対して従来と同等の移植成績が得られることが明らかになっています。

複数さい帯血移植によって助かる患者さんが、治療を受けるチャンスを失うことがないように、日本造血細胞移植学会、日本さい帯血バンクネットワークに複数さい帯血移植の再開を要望しました。1日も早い再開を切望いたします。

ドナーの提供環境整備にご協力を!

生命保険協会に要望書を提出

骨髄バンクのドナー登録者現在数が42万人を超え、昨年1300例前後の非血縁者間移植が行われたようです。

その後、2010年秋に、

提供くださったドナーの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいですが、せっかくドナー候補者に選ばれながら、勤務先にドナー休暇が完備されていないなど、自営業ゆえに休業補償がないなどの理由で、コーディネーター進行や提供を断念された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

「ドナーさんが少しでも提供しやすくなるように」と、2005年にプルデンシャル生命保険が骨髄ドナーに対する給付特約を備えた保険商品を我が国で初めて開発しました。

同様の商品をもっと多くの保険会社で取り扱ってもらえるよう、全国協議会では2008年に生命保険協会に対し、加盟各社に「骨髄バンクドナー給付」の導入働きかけをお願いする要望書を提出しました。協会のご理解とお心遣いにより、これまで生命保険会社で9社、損害保険会社で2社、共済互助会で3社が、こうした「ドナー給付」特約を商品化してくださっています。

造血細胞移植医療推進

公開フォーラムを開催します

開催日時 2013年1月20日(日)
10時30分～15時30分
開催場所 NBF上野ビル9Fセミナー室
(東京都台東区東上野4-24-11)
内容 基調報告「新法を活かすアクションプランと課題」
第一部「造血細胞移植医療の新たな枠組み作りに向けて」
第二部「移植患者さんを全力でサポートするために」
※参加費無料

昨年9月12日、多くの関係者のご尽力により、長年の課題であった造血細胞移植医療に関する根拠法として「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が公布されました。今後予算措置が取られた後、2013年下半期にも施行されることとなります。

このたびの新法の制定を受けて、今、造血細胞移植医療に関わるすべての関係者が一同に会して議論を展開することこそ、山積する諸課題の解決に向けた端緒となるものと期待されます。

全国協議会では来るべき法律の施行に基づく実効ある実施体制の確立、それに裏付けられたよりよい移植医療環境の確立を目指すことを目的に、公開フォーラムを開催することとなりました。ぜひご参加いただき、多くの意見を交わしましょう。

●患者さん、ドナーさんの声をお聞かせください!
法律の施行に向けて、その

改めて要望書を提出致しました。ドナーにとってよりよい提供環境づくりにご協力いただけるよう、社会貢献の観点からも、理解を求めていきたいと思っております。

既にマスコミ等を通じて報道されましたが、その幅広い活動とお人柄で、歌舞伎界のみならず、多くの国民に愛されてきた歌舞伎俳優の中村勘三郎さんが12月5日にご逝去されました。享年57歳。余りにも早過ぎる旅立ちでした。

十八代目勘三郎を襲名される前の勘九郎さんの時代に、海部幸三元会長が後援会に関わられていたご縁もあって、95年の全国協議会設立5周年記念大会(名古屋)での講演、98年の「勘九郎杯骨髄バンクチャリティゴルフ大会」(千葉)の主幹、99年には当時テレビ放映中の主演大河ドラマの討ち入りにあわせ、12月14日に日赤中央データセンターで自らドナー登録もしていただき、私たちにエールを送ってくださいました。その後も、ノースウエスト航空(現デルタ航空)のエアケア・チャリ



「こんなことが困っている」「ここはおかしい」「こうしてほしい」といった改善点や要望、「こういう点は良い」といった意見など、率直な声をお聞かせ下さい。何となく思っていること、感じていることでも構いません。頂いた声は、1月20日に開催する「公開フォーラム」や、今後行われる厚生労働省疾病対策部会造血幹細胞移植委員会等を通じて、政策決定の場に届けます。

皆さんの声をお聞かせください、皆さんの声をお聞かせください、皆さんの声をお聞かせください。

●患者さん、ドナーさんの声をお聞かせください!
法律の施行に向けて、その

改めて要望書を提出致しました。ドナーにとってよりよい提供環境づくりにご協力いただけるよう、社会貢献の観点からも、理解を求めていきたいと思っております。

「こんなことが困っている」「ここはおかしい」「こうしてほしい」といった改善点や要望、「こういう点は良い」といった意見など、率直な声をお聞かせ下さい。何となく思っていること、感じていることでも構いません。頂いた声は、1月20日に開催する「公開フォーラム」や、今後行われる厚生労働省疾病対策部会造血幹細胞移植委員会等を通じて、政策決定の場に届けます。

皆さんの声をお聞かせください、皆さんの声をお聞かせください、皆さんの声をお聞かせください。

東日本大震災被災者支援基金

11月21日～12月20日

京都骨髄ドナーを募る会	現金	43,000円
越田 光重	現金	3,000円
越田 光重	現金	3,000円

(敬称略)

寄付受入 合計8,608,536円

給付実績 47件 合計8,462,309円

基金積み増しにご協力ください

●郵便振替(通信欄に震災支援と記載)
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
00150-4-15754

●銀行の場合
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
ゆうちょ銀行 008店 普通 4799951

治療を最善のタイミングで受けられる、より良い医療環境、医療体制を実現しましょう。

●締切 第1回締切 2013年1月15日(火)
第2回締切 2013年2月28日(木)

●様式 自由

ご意見は、FAX、E-Mail、電話、郵送にて全国協議会までお寄せください。

「こんなことが困っている」「ここはおかしい」「こうしてほしい」といった改善点や要望、「こういう点は良い」といった意見など、率直な声をお聞かせ下さい。何となく思っていること、感じていることでも構いません。頂いた声は、1月20日に開催する「公開フォーラム」や、今後行われる厚生労働省疾病対策部会造血幹細胞移植委員会等を通じて、政策決定の場に届けます。

皆さんの声をお聞かせください、皆さんの声をお聞かせください、皆さんの声をお聞かせください。

新春企画

加盟団体 昨年度一番の出来事と今年の抱負

加盟団体に、昨年度一番の出来事(A)や、今年の抱負(B)を述べてもらいました。
若手県骨髄バンク推進協議会
橋本

B これからの骨髄バンク
を含む血液幹細胞移植
に法制化後、私たちは何を望
み、何を指し、行動するか
を考へる年にならばと思いま
す。

宮城骨髄バンク登録推進協議会 小島

A イオンモール石巻店の
破格なご協力により、
初日は豪華なワナー映画館
での宮村先生の講演とプロに
よるお手紙朗読会を皮切りに
最終日の大谷貴子さんの講演
まで、充実した内容の感動的
な石巻支部設立20周年記念
のちの輝き展が9日間にわた
り被災地の石巻で展開された。

福島県骨髄バンク推進協議会 関根

A 福島県骨髄バンク推進
協議会県南支部は設立
17年目を迎え、毎年各市町村
での啓蒙活動としてコンサー
ト、講演会、展示会等を開催
してきました。一昨年11月3
日には、さとう宗幸さんを迎
え、東日本復興コンサートを



千葉の会の2012
年重大ニュースは、7
年ぶりの会報復活、初開催の
「ちばアクアラインマラソン」
で骨髄バンク普及啓蒙、そご
う千葉店でフルセットでの
「あやちゃんの贈り物展」の
開催です。

B 2013年も、会員の
皆さんと力を合せて、
骨髄バンク支援の活動に取り
組みます。

富山の会は、今年6月
に設立満20周年を迎え
ます。ここ数年、開店休業状
態でほとんど活動らしい活動
もできなかったのですが、こ
れを機に心機一転、いえ、原
点に立ち返って地域密着型の
活動を再開したいと思いま
す。

北九州・がんを語る会
玉水・吉武
B 会員・家族さんと共に
「希望(のぞみ)」を繋げてい
ける活動を行って行きたいで
す。知り得たい情報を発信で
きる会報原稿作り、他の患者
団体との交流等も取り組んで

抗(抱負)という言葉に抵
名称変更で「骨髄さい帯血
バンク議員連盟」となり今現在
57名の国会議員が総会で賛同
したとのこと。今までの議員
参加者の名がボガせて各県毎
の報告が欲しい。

2012年度ブロック別ボ
ランティアセミナーの先陣を
きつて、関東甲信越地区で開
催されました。主管団体のア
サガオの会・高野さんから感
想が寄せられました。

12月15日に関東甲信越ブ
ロックセミナーが新潟県燕市
の燕三条地場産業振興セン
ターにて開催されました。私
政をまきこみ続けていこう。

2012年度運動スローガン] ~抜本的改革を目指して~ 志は高く 歩みは着実に

いければと思います。全国骨
髄バンク推進連絡協議会の団
体の中では、まだ1年にも満
たない私共ですが活発に発
言・活動報告が出来る様な団
体としても今年も、仲間と共
に歩みたいと思えます。

佐賀県骨髄バンク推進連絡協
議会 幟持
A 2012 SAGA
INTERNATIO
NAL 10月31日~11月4日
佐賀市嘉瀬川河川敷へ1週
間7時から20時まで啓蒙・ド
ナー登録へ体を張って出動し
た。年間行事中で一番労力と
心勢の活動である。国内外よ
り100機のバルーンが競技
係留に青空を飛翔した。歓声
は絶頂である。献血車での登
録50余名あり。たしかに骨髄
バンクの存在は拡大しつつあ
るが、当会員のボランティア
活動は感謝のみ。是非に参加
して下さるのか自己に感謝す
る。高校生、短大生のボラン
ティアに敬意と、今後の人生
ふみだしに関心を充分もって
いただいたと嬉しかった。御
礼はせずにおれない資金に苦
慮するが、(この様は、全
国協会の方からも世界から
の参加の壮さは見物すべき
ではなからうか。)

池田
B 新しい年の幕開けとな
りました。とくしまの
会でも引き続き、今年もイベ
ントなどを通じて普及啓蒙を
行いたいと思えます。大きな
事はなかなか出来ていません
が、骨髄バンクを少しでも多
くの人の知ってもらおうとい
う基本を胸に一歩ずつ前へ進み
ます。これから私たちが育て
ていく新しく出来た法律の肥
やしとなりましょう。

沖縄県骨髄バンクを支援する
会 糸数
B 新法制化という「新芽」
を大事に育て、みんな
で色とりどりの花を咲かせま
す。

2012年度ブロック別ボ
ランティアセミナーの先陣を
きつて、関東甲信越地区で開
催されました。主管団体のア
サガオの会・高野さんから感
想が寄せられました。

12月15日に関東甲信越ブ
ロックセミナーが新潟県燕市
の燕三条地場産業振興セン
ターにて開催されました。私
政をまきこみ続けていこう。

18名もの参加者があり、有
意義な時間を過ごすことがで
きました。皆さんご苦勞様で
した。

2012年度運動スローガン] ~抜本的改革を目指して~ 志は高く 歩みは着実に

今年また来年は、献血
併行登録会に向けて行
政、日赤との連携を密にし、
登録者の拡大に努めます。ま
た説明員の増員にも努めたい
と考えます。

今年また来年は、献血
併行登録会に向けて行
政、日赤との連携を密にし、
登録者の拡大に努めます。ま
た説明員の増員にも努めたい
と考えます。

2011年の東日本大
震災によって延期して
いた第20回記念円覚寺チャリ
ティーコンサートを開催する
ことができました。桜の美し
い季節にたくさんの方にお出
でいただきました。

この数年県内のドナー
登録数が著しく低下し
ているので、日赤、行政との
連携協力の体制作りに入力を入
れたいと考えています。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。



ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

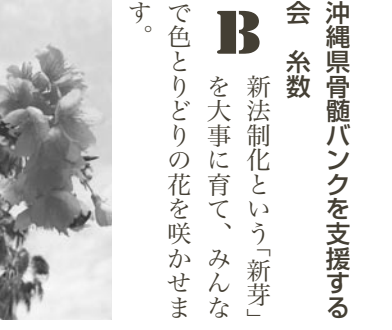
ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする — 骨髄バンク NOW
(財団マンスリーJMDP (12月15日発行)より抜粋)
●骨髄及び末梢血幹細胞移植数が1万5千例に到達
12月12日、日本骨髄バンクを介した骨髄及び末梢血幹細胞移植数は、平成5年1月の最初の
骨髄移植の実施から約20年の年月を経て、累計移植数が1万5千例に到達しました。
これまでに骨髄及び末梢血幹細胞をご提供いただいたドナーの皆様をはじめ、ご協力いた
だきました全ての関係者の皆様に心から感謝申し上げます。
なお、移植数は毎年増加しており、特に平成24年は毎月100例を上回る移植が実施されており、
年間移植数は過去最高の1,340例を超える見込みです。
その一方で、骨髄採取の調整が困難な状況が続いており、ドナーが決まったにもかかわらず、
待機時間が長いために移植できない患者さんが年間約100名にも上る現実があり、この解決が財
団の最重要課題となっています。
●読売巨人軍の骨髄バンク支援&越智投手の病院訪問
11月23日、東京ドームで毎年恒例のファン感謝イベント「ジャイアンツファンフェスタ
2012」が開催され、当日、桃井恒和球団社長より財団に、チャリティーグッズの販売収益金と
球団からの支援金が贈呈されました。
また、12月4日、読売ジャイアンツの越智大祐投手が東海大学附属病院を訪問し、入院中
の子供たちを激励しました。越智投手は今回が5回目の病院訪問となり、無菌室の子供たちにプレ
ゼントを手渡ししたあと院内学級のクリスマスパーティーに参加し、ゲームや楽器演奏を行う
など子供たちと楽しいひと時を過ごしました。
●恒例の骨髄バンクチャリティーゴルフ大会が開催されました
12月3日、戸塚カントリー倶楽部において「第7回ぐるなび骨髄バンクチャリティーゴルフ大
会」が開催されました。昨年は東日本大震災の影響で開催が中止となりましたが、今年は2年
ぶりの再開となりました。本大会には、各界から大会の趣旨に賛同した100名以上の方が参加
され、大会後、滝久雄大会会長から財団へご寄附をいただきました。
同日、財団の評議員であるプロゴルファーの中満祐子さんが、昨年に引き続き「中満祐子骨
髄バンクチャリティーゴルフ大会」を開催しました。女子プロゴルファーを含め100名以上の方が
参加し、コンペ終了後はチャリティーオークションが行われ、収益金を財団にご寄附いた
だきました。
◆日本骨髄バンクの現状(平成24年11月末現在)
9月 10月 現在数 累計数
ドナー登録者数 4,179 3,274 423,977 563,911
患者登録者数 262 249 2,916 37,344
移植例数 120 121 - 14,964
■11月の年齢別ドナー登録者数(現在数)
10代 2,772人/20代 71,391人/30代 153,255人/40代 157,300人/
50代 39,259人
■11月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム/1,014人、献血併行型集団登録会/2,111人、
集団登録会/90人、その他/59人
■11月の20歳未満の登録者318人
注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。平成24年7月より集計方法が変わりました。



ボランティアの集
いは「ボランティアの集
いin天理」に向けて、会員一
同準備に向けて頑張っていま
す。全国から患者さんやボラ
ンティアの皆さんが「行って
良かった」と思われる大会に
する所存です。

理解を広めるために 踏み出した新たな一歩 小児がん学会で経験者らが多彩な企画

11月30日〜12月2日パシフィック横浜会議センターで、第54回日本小児血液・がん学会学術集会 第10回日本小児がん看護学会 第17回公益財団法人がんの子供を守る会公開シンポジウムが開催されました。

会場では小児がんの子供たちの絵画展が開かれ、全国協議会も学会受付と同じフロアの一番目立つ場所に啓発ブースと「あやちゃんの贈り物展」の展示コーナーをいただき、フルセットで展示を行いました。

全国の皆様には、あやちゃん「いのち」「愛」にあふれた作品に接し、闘病生活の中から湧き出てきた生きる力、表現する力を感じていただきたいと思います。私自身、会場に来られたあやちゃんのお父さんに、当時のお話を伺いながらじっくり見ることができ、命の尊さと重さを受け止め、初心に帰って、一層骨髄バンク活動の推進をとの思いを新たにしました。

最終日の12月2日は、様々な企画が行われました。

まず、朝一番にはチャリテイマラソン&ウォーキングが行われ、日頃の白衣姿をユニフォームに変え、多くの先



●小児がんを克服し、元気にランニング

生や看護士さん方が早朝の横浜を走りまわりました。全国協議会メンバーはコース途中に陣取り、記念撮影係を兼ね、旗と横断幕で声援を送りました。

午前の部は小児がん経験者による企画、「私たちのおもい」と題したシンポジウムで「〜」と題したシンポジウムでした。小児がん経験者の思いが語られ、小児がんに関わる関係者からメッセージが寄せられ、最後に「小児がん横浜宣言」が読み上げられました。

幼いころから小児がんという重い病気を背負ってきた患者さんらが成人し、色々な課題を持ちながら生活していることに声をあげ理解を求めているという次のステップに踏み出しているのです。我々の活動を通してお手伝いできることは何かを考えなければと強く感じました。

午後の部は、トーク&コンサート「ありがとう ありがとう いのちのリレー」が開催され、小児がんや移植の話、ミニコンサート、そして女優の東ちづるさんらによる移植を受けた子どもやご家族からドナーに宛てられた手紙の朗読がVTRで放映され、市川團十郎会長もVTR出演をしました。

ボジウムや絵画展を通して感じ、接することができ、大変勉強になったとともに、このイベントに参加できたことに感謝いたします。(村上)

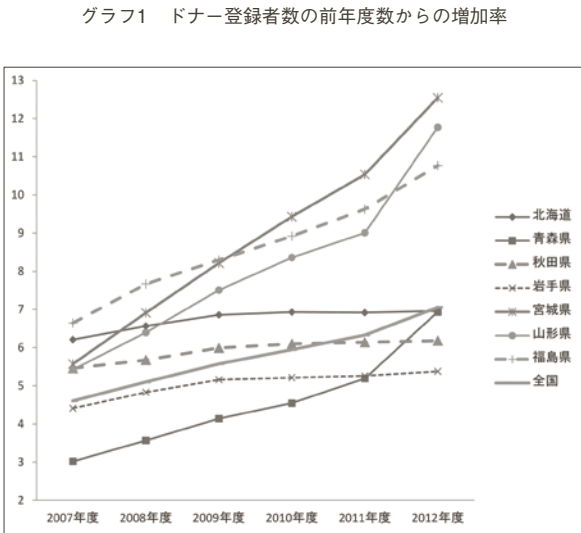
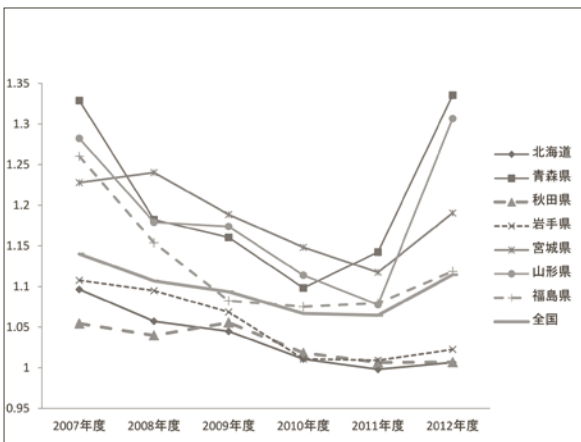
グラフで眺めるドナー登録の推移／北海道・東北編

骨髄バンクのドナー登録者を増やすことだけが私たちの活動ではありませんし、また、数だけ増えればよいというものではないことを、私たちはこれまでの活動のなかでたびたび実感しています。それでも、骨髄バンクドナー登録者の数の推移が私達にとって大きな関心事であることは、間違いありません。加盟団体のみなさんはご自身の地域の現状をつぶさに把握されていると思います。近隣あるいはブロック内の都道府県の推移との比較により、今後の活動の新たな視点や、取り組みへのヒントが見つかるのではないのでしょうか。そこで、日赤中央骨髄データセンターが毎月公表しているデータをもとに、過去5年間の11月末時点のデータから、県別の推移をグラフで表してみました。比較のために、全国の推移も加えています。

まず基本的なデータですが、骨髄バンクのドナー登録数は11月末現在で、有効登録数は42万3千977人、累計では56万3千911人ですから、抹消は13万9千934人になります。

今回は、北海道と東北六県について、登録数の対前年度増加率と単位人口当たりの登録数の推移をグラフ化しました。順次全国各ブロックを取り上げて、紹介していきたいと思えます。

グラフ1から、大半の道県において07年以降11年まで、対前年比で登録数の伸び



グラフ1、2共に中央骨髄データセンターの資料から作図

が鈍っていたことがわかります。その背景の詳細については、道県ごとに異なる事情があるはずですし、グラフだけから読み解くことは出来ませぬので、各地団体の皆さまからなんらかの情報提供をいただければと思います。このグラフからもうひとつ読み取れるのは、青森・山形・宮城の各県では11年に対して12年に対前年比で大きくプラスに転じていることです。特に、山形、青森で顕著です。これらの県については、グラフ2の単位人口当たりの登録者数の伸びでも、一目瞭然です。事実ですから触れないわけにはいきませんが、その一方で北海道および秋田・岩手の両県では伸び悩みが明らかです。もちろん、これらの道県で新たなドナー登録がないわけではありませぬ。単に、新規登録と登録抹消とが拮抗しているに過ぎないのです。しかし、さい帯血バンクと異なり、骨髄バンクは常に新たなドナー



(次回に続く)

登録を拡大補充し続けなければなりません。前述の数字から、これまでのドナー登録者のおよそ4分の1が年齢超過等の理由です。登録を抹消されていることがわかりますし、今後も抹消数が減少することはありえない、そしてこれだけの規模のドナープールでありながら、いまだに移植にたどりつけない移植希望患者が大勢いらつしやるのが現実だからです。

このグラフから希望をひとつ読み取るとすれば、一昨年3月の東日本大震災で大きな被害を受けた県のいくつかが、このエリアに含まれているにも関わらず、たとえば宮城県では11年度に比べて12年度に大きな伸びを示していることです。これひとつをみて復興の兆しというわけにはまいりませんが、人々の助け合いこそがいまの私たちに求められていること、そして、一時的な中断は余儀なくされたとしても、宮城や福島の皆さんが、地域にしっかりと根ざした地道な活動をたゆみなく継続していることの反映ではないかと思えます。

今回のグラフでは過去5年分しか表示しておりません。それ以前の推移の歴史にこそ

ドラマがあるのかもしれない。いえ、間違いなくあったはず。しかし、その歴史の違いは、グラフ2の左端、07年度のポイントの高低に少なからず反映されているはず。単位人口当たりの登録者数で都道府県の全国順位をつけることには批判の向きもあるかと思いますが、この順位を自分たちの努力への勳章と捉えたり、さらなる活動へのエネルギーに変えてきたボランティアは決して少なくないはず。北海道・東北エリアについてみると、登録率の高い順で、福島が全国2位、宮城が4位、山形が6位です(12年11月末現在)。北海道と青森は登録率で全国平均をわずかに下回りますが、順位では北海道が20位、青森が21位です(同)。ここで示したグラフからは窺いしれませんが、北海道はかつて全国のトップ3にランクインしていました。一方青森は全国最下位にあえていた時期があったのです。

登録数や登録率、全国順位がすべてではありません。しかし私たちがここから何かを考え何かを学ばねばならぬと思えます。皆さんおひとりおひとりに、ぜひ思いを巡らせていただきたいと思います。

英国ではドナー登録の年齢が30歳までに制限されますが、このような年齢制限をおこなっても、たくさんドナーを集められる秘訣は何でしょうか? これにはいくつかの要因を挙げる事ができます。まず1つ目に、ドナー登録の方法が、唾液によって行われることが挙げられます。唾液は、インターネットで取り寄せた唾液採集キットで簡単に採取できますので、日本の採血に比べれば格段に簡単です。全体のおよそ3割がこの方法によって登録に至ります。2つ目は、学生運動が盛んなこと。英国の大学の多くには『MARRROW』というサークルがあって、このサークルの活動によって登録に至る人もおよそ3割です。当然この人たちも唾液で登録できます。3つ目は、これは秘訣とは言えませんが、やはりバンクの設立が早く活動期間も長いのもも言えます。

さて、次いで私たちの足はドイツへ向かいます。

ドイツのバンク「Zentrales Knochenmarkspender-Register Deutschland」(以下ZKRDR)の設立は1991年。JMDPの設立も1991年なので、日本とドイツでは、ほぼ同時に骨髄バンクができたと言えます。

まずは、ドイツの移植事情です。ドイツでは全体のおよそ80%がPBSCT、20%がBMTとのことでした。英国ほどではありませんが、やはりPBSCTが圧倒的ですね。英国と同様、日本における非血縁者間のPBSCTの現状には大変驚かされていました。

次いでドナー事情。これ

は驚きです。なんとドナー人口は450万人を超えます。実に日本の10倍以上です。ドイツの人口は、およそ8100万人なので日本の3分の2程度と言えます。したがって人口比で考えるとおよそ15倍になります。これだけ大きなドナープールを構築できた理由を推測すると、一つにはやはり唾液登録という簡便な登録方法があると思えます。もう一つは、これは完全に私の推測なのですが、ドイツの徴兵制と良心的兵役拒否という制度が関係しているのではないかと考えます。ドイツには徴兵制があるのですが、8割程度の人は兵役を拒否しているのが実態です。兵役を拒否した人は、その代わりに6年間のボランティア活動などに従事することになります。この活動は、ドナー人口の増加に一役買っているのではないのでしょうか。

ところで、実はZKRDRは首都ベルリンではなく、ウルムという人口12万人の小さな地方都市にあります。英・仏・日は、それぞれロンドン・パリ・東京という首都にバンクがありますが、なぜドイツではこのような地方の小都市に存在しているのでしょうか?

英国ではドナー登録の年齢が30歳までに制限されますが、このような年齢制限をおこなっても、たくさんドナーを集められる秘訣は何でしょうか? これにはいくつかの要因を挙げる事ができます。まず1つ目に、ドナー登録の方法が、唾液によって行われることが挙げられます。唾液は、インターネットで取り寄せた唾液採集キットで簡単に採取できますので、日本の採血に比べれば格段に簡単です。全体のおよそ3割がこの方法によって登録に至ります。2つ目は、学生運動が盛んなこと。英国の大学の多くには『MARRROW』というサークルがあって、このサークルの活動によって登録に至る人もおよそ3割です。当然この人たちも唾液で登録できます。3つ目は、これは秘訣とは言えませんが、やはりバンクの設立が早く活動期間も長いのもも言えます。

さて、次いで私たちの足はドイツへ向かいます。

ドイツのバンク「Zentrales Knochenmarkspender-Register Deutschland」(以下ZKRDR)の設立は1991年。JMDPの設立も1991年なので、日本とドイツでは、ほぼ同時に骨髄バンクができたと言えます。

まずは、ドイツの移植事情です。ドイツでは全体のおよそ80%がPBSCT、20%がBMTとのことでした。英国ほどではありませんが、やはりPBSCTが圧倒的ですね。英国と同様、日本における非血縁者間のPBSCTの現状には大変驚かされていました。

次いでドナー事情。これ

(次回に続く)

欧州視察その2

英国ではドナー登録の年齢が30歳までに制限されますが、このような年齢制限をおこなっても、たくさんドナーを集められる秘訣は何でしょうか? これにはいくつかの要因を挙げる事ができます。まず1つ目に、ドナー登録の方法が、唾液によって行われることが挙げられます。唾液は、インターネットで取り寄せた唾液採集キットで簡単に採取できますので、日本の採血に比べれば格段に簡単です。全体のおよそ3割がこの方法によって登録に至ります。2つ目は、学生運動が盛んなこと。英国の大学の多くには『MARRROW』というサークルがあって、このサークルの活動によって登録に至る人もおよそ3割です。当然この人たちも唾液で登録できます。3つ目は、これは秘訣とは言えませんが、やはりバンクの設立が早く活動期間も長いのもも言えます。

さて、次いで私たちの足はドイツへ向かいます。

ドイツのバンク「Zentrales Knochenmarkspender-Register Deutschland」(以下ZKRDR)の設立は1991年。JMDPの設立も1991年なので、日本とドイツでは、ほぼ同時に骨髄バンクができたと言えます。

まずは、ドイツの移植事情です。ドイツでは全体のおよそ80%がPBSCT、20%がBMTとのことでした。英国ほどではありませんが、やはりPBSCTが圧倒的ですね。英国と同様、日本における非血縁者間のPBSCTの現状には大変驚かされていました。

次いでドナー事情。これ